

「県民と県議会との意見交換会」 盛岡会場 の概要

〔日 時〕 令和元年12月4日（水）18：30～20：10

〔場 所〕 岩手県議会 議会棟1階 大会議室

〔テーマ〕 若者の県内就職と就職後の展望について 〔参加者〕（7名）

伊 藤 聡 志（岩手大学人文社会学部 3年）

片 山 咲 帆（岩手大学人文社会学部 3年）

佐 藤 駿 介（岩手大学人文社会学部 3年）

玉 川 和 泉（岩手大学人文社会学部 3年）

上 村 龍（岩手県立大学総合政策学部 3年）

富 澤 南（岩手県立大学総合政策学部 3年）

西 野 花 菜（岩手県立大学総合政策学部 2年）

〔出席議員〕（9名）

川村伸浩議員、軽石義則議員、佐藤ケイ子議員、千葉秀幸議員、千葉伝議員、

田村勝則議員、千葉盛議員、ハクセル美穂子議員、斉藤信議員

〔オブザーバー議員〕（4名）

柳村一議員、高橋穂至議員、高橋こうすけ議員、小林正信議員

〔事務局職員〕（9名）

◆ 参加者自己紹介及び本会議傍聴の感想等

○伊藤さん

出身は、北海道室蘭市である。地域政策を学びたいと思い、岩手大学に進学した。政治学ゼミに所属している。特に、外交関連に関心があり、今日の議会を傍聴して、高田一郎議員の日米の貿易協定の話に興味を持って話を聞かせていただいた。

○片山さん

出身は、宮城県仙台市である。人文社会学部の地域政策課程の政治学ゼミに所属している。仙台市では若者が離れるという状況が他の東北の県より少ないが、進学のために岩手県に来て、そういう問題を肌で感じている。今日の議会では、国際問題、子供の問題、震災後の課題など、幅広い分野について、岩手県に住んでいる人のために議論されていると感じた。

本日途中で退席するので、若者の県内就職についてここで意見を述べたい。仙台市と比較して岩手県で生活して感じることは、アクセスの違いである。バス、地下鉄、鉄道等について仙台市とのギャップを感じている。そのような中で、岩手県ならではの生活のしやすさがあると思う。就職に関しては、関東圏に就職するより、岩手県に就職することのメリットが必要であろう。関東圏と給与面で比べると難しいだろうから、例えば、残業が少ないなどの労働環境のよさをPRするなどの取り組みがあるだろう。学生向けには、岩手県に就職すれば奨学金の負担が軽減されるような取り組みなど、他県でも同じような取り組みをしていると思うが、制度の周知の徹底などを行えば、若者離れを防ぐ手段になるのではないかと思う。

○佐藤さん

出身は、秋田県秋田市である。学びたい分野と経済的状況を加味して、岩手大学に進学した。秋田県も本日のテーマと同様に人口流出問題が著しいので、今日の意見交換会で出た意見を、自分も出身

地と照らし合わせて学びたいと思う。本日の議会を傍聴して、災害復興、高齢者問題、子どもの問題、環境問題など、様々な視点からのアプローチがあり、テーマによっても違う視点の質問がなされ、幅広い問題に対して深く議論されている印象を受けた。今日の一般質問の内容が、今後の岩手県にどのように政策に生かされるのか、楽しみにしていきたい。

○玉川さん

出身は、青森県南部町である。青森県ではあるが岩手県に近く、一番身近な国立大学の岩手大学を選択した。南部町も人口減少が著しく、本日の意見交換会ではいろいろな方の意見を聞いて、今後青森県に戻って就職した時に還元できたらと思う。岩手県議会を訪れるのは初めてであり、最初は敷居が高いイメージがあり緊張した。ゼミで子どもの貧困問題を取り上げているが、本日の議会では、生活に身近な問題を取り上げていて、議会が生活に近い印象を受けた。就職までは時間があるが、本日の意見交換会を通じて、今後について考えたい。

○上村さん

出身は雫石町である。大学では会計学を専攻している。本日の一般質問では、身内に介護士をしている者がいるため、特別養護老人ホーム等の問題や、これまでインターンシップに参加し、高齢者ドライバーの問題について考える機会があったため、本日の県議会でも同様の話があり、関心を持つことができた。

若者の県内就職についての意見は、県外に流出する最も大きな原因は、県内に雇用先がないことがあげられると思う。解決策としては、大企業のオフィスを県内に増やしたり、労働条件や賃金条件が若者に合った条件に変化していけばUターンしてくる若者も増え、若者が就職しやすい環境になっていくのではないかと思う。

自分の将来については、県内で、公認会計士になりたいと考えている。県内で経験を積み、独立し、県内の大企業から小企業まで、財務や税務などのサポートをしていきたいと考えている。

自分自身、首都圏の企業や、地元企業のインターンシップやグループディスカッションなどにたくさん参加してきたので、その経験などを意見交換会で役に立てたいと思う。また、皆さんの意見を伺い、新しい発見や気づきなどがあればよいと考えている。

○富澤さん

出身は、盛岡市である。大学では、地域系で地域公共交通を専攻している。県議会の傍聴は本日が初めてで、テレビで「今日の県議会」が流れていれば見る程度である。

大学の実習の中で、一人の先生に10人程度の学生がついて行う科目があるが、その中で、大船渡市と釜石市に出向き、グループ補助金の格差について住民から聞き取り調査を行うことをしている。聞き取り調査では、どれくらいの補助があったか、どの点が課題だったかなどを伺い、今後に向けて提言をしていくのだが、本日の県議会でもグループ補助金の話があり、興味深く聞いていた。

また、高齢者ドライバーの問題については、高齢者に対して認知症対策などにより早期に免許返納を促しているが、盛岡市は交通の便があまり良くないために免許返納が遅れ、事故が起こってしまうことが問題になっている。その解消のために、高齢者とコミュニケーションを取り、公共交通に転換をしていこうということを卒業研究にする予定である。

就職場所については迷っており、今のところ県内でも県外でも就職活動をしている状況である。上村さんと同じように、関東圏のインターンシップや、県内のインターンシップにも参加をしているので、幅広く意見をさせていただければと思っている。

○西野さん

出身は、北上市である。2年生のため、就職活動をしていない状況の中で、この県内就職に関する意見交換会に参加するのは不安であるが、私自身、北上市で、市内の小学生を対象に仕事を体験してもらう「鬼っジョブ」という事業の実行委員会に入り活動している。小学生を対象に、北上市を好きになってもらうきっかけづくりの事業企画を私が計画しているところである。また、北上市のコミュニティFMのパーソナリティをしており、北上市のことで関わっているのも、地域づくりの面から、就職についての意見ができればと考えている。

今日の県議会を傍聴して、専門が地域系だったこともあり、内容が難しいと思った。資料（質問通告一覧）をいただいたが、資料の内容よりも沢山の質問があって、メモしていくと今何を質問しているのかわからなくなり、頭が混乱した。若者が傍聴するなら、附属資料などもあれば理解が深まるのではないかと思った。

◆ 意見交換

○齊藤信議員

上村さんと富澤さんは首都圏と県内のインターンシップを経験されたとのことだが、そこでの感想、問題意識、どういうところが違っているのか伺いたい。

〔回答：上村さん〕

首都圏のインターンシップに参加してみて、地元のインターンシップとの違いは、まず、人の多さである。会社内でも人の多さが違い、学生のレベルも全然違う。グループワークなどを主にしてきたが、学生の知識量が違う。都内の企業のインターンシップを受けている方たちは、知識量が豊富で話し方もうまく、大学内での教育の差などもあるかと感じた。その他、首都圏の企業と地元企業では賃金格差があり、学生は考慮するところだと思う。自分は、県内就職や県外就職を考える上で、銀行やインフラ系、人材系の会社で、業界で一位、二位の企業のインターンシップに参加したが、いずれ県内就職をしたいと考えている。

〔回答：富澤さん〕

私たちが参加したインターンシップは、東京の大企業に限ったもので、私は、生活用品や化粧品などを扱い幅広く事業展開している企業に参加した。首都圏の企業は、この部門については、この会社というように、譲ることが出来ない地位があったり、部署と部門の展開が大きい。同業他社が岩手県にもあるが、地元の企業は従業員数も少ないこともあるが、部門展開等も小さい。また、首都圏の大企業は、勤務している者も東京の有名大学の出身者が多く、驚いたところもある。

私も、賃金面は多少は気にするところはあると考えているが、最初に働くところとしては、首都圏の大企業もいいのかと思い、県外企業と県内企業の選択を迷っているところである。何年かしたら、確実に地元に戻りたいという考えはあるが、最初に地元を選択するか、あるいは首都圏に出て大企業に挑戦するかという選択もあり、迷っている。

○田村勝則議員

みなさん選挙権をお持ちだと思うが、選挙に行っているかどうかを伺いたい。また、県外出身の3人にお聞きしたいのは、地元に戻って就職したい考えのようだが、どうして盛岡市に就職を希望しないのかという点について伺いたい。

〔回答：伊藤さん〕

選挙については、実家に投票のはがきが届き、盛岡市に転送されるのが遅くなり、選挙当日に不在

者投票ができると思っていたが、自分の認識不足で、選挙当日に選挙会場に行ったら前日までに不在者投票をしなくてはいけないことを知り、恥ずかしい思いをした。

地元の室蘭市で就職したい理由は、明らかに都会なのは盛岡市のほうだが、盛岡市が駄目なのではなく、地元が好きだから帰りたいという気持ちが一番である。バレーボールの指導者免許を取得したので、自分が卒団したスポーツ少年団の指導をし、地元で働きながら少年団の子どもの育成をしたいと考えている。

〔回答：佐藤さん〕

私も、投票のはがきが秋田市の実家に届くため、選挙に行っていない。

盛岡市に就職するのが嫌なのではなく、盛岡市でもいろんな方達に助けられているが、生まれ育った秋田市に、福祉や教育の面で良くしてもらったという思いがある。恩返しをしに、地元の秋田市で働きたいと考えている。

〔回答：玉川さん〕

高校3年生の時に選挙に行ったが、今年には行っていない。更に、投票所がこれまで家から徒歩で行ける場所であったが、投票所が変更になり遠方になったので行きづらくなった。

私も、盛岡市は都会過ぎず、田舎過ぎず、中間の雰囲気がいいと思うが、これまで育ててくれた親や、助けてくれた人たちに恩返しをしたい気持ちがあるので、青森県に戻って就職したい考えである。

〔回答：上村さん〕

選挙について、一度だけ投票したことがある。それ以外で行かなかった理由は、資格試験の勉強で忙しかったということだが、言い訳にしかならないと思う。

〔回答：富澤さん〕

私は、選挙に行ったのは3回だと思う。投票のはがきが届いた分はすべて投票している。

〔回答：西野さん〕

私も、投票のはがきが届いた分は、すべて投票している。

○千葉盛議員

本日参加している県外出身の方々には、地元に戻り、地元のために活躍したいという考えが素晴らしいと思う。岩手県沿岸部では、なかなか若い人たちが戻ってこない。

県内出身の方々には、沿岸への就職ということをイメージできるのか。県外出身の方々には、沿岸にそもそも行くことがあるのか、沿岸に対するイメージを伺いたい。

〔回答：富澤さん〕

沿岸のイメージは、調査に行った時の調査手法が、直接聞き取りだったせいなのか、盛岡市の方言と違い、沿岸ならではの方言などが温かみがあったいいと思った。就職と考えると、生まれ育ったところが盛岡市なので、あえて沿岸を選択しないと考えている。沿岸出身の友人もいるが、盛岡市は便利だが、沿岸までの交通アクセスが不便なので、帰省が不便などの話を聞いたことがある。交通アクセスが整い、就職したい企業が増えるなど条件が整えば、沿岸出身者は地元に戻ることを考える者が増えるのではないかと思う。

〔回答：西野さん〕

私も、釜石市と大船渡市への調査に参加した。主に、釜石市の商店街の個人事業主の方に、聞き取り調査を行った。まだ復興の最中で、商店街の復興に頑張りたいという話を伺った。自分は北上市に住んでいるので、就職するなら北上市から離れないところと考えているので、沿岸で就職活動はしないと思う。

〔回答：上村さん〕

9月くらいに大船渡市に海を見に出かけたが、自分が思っているより復興が進んでいて、チェーン店や建物もたくさんあり、商業施設があつて驚いた。働くことを考えると、交通の便が気になり、盛岡市までのアクセスなどに時間もかかるので、沿岸での就職については考えていない。

〔回答：玉川さん〕

震災をきっかけに、沿岸については、テレビで知る程度である。1年生の時に、震災学習で釜石市を訪問し、静かな印象をうけた。それだけで判断することはよくないと思うが、震災前を知らないのので、そういう印象になっているのかもしれない。

〔回答：佐藤さん〕

県南の沿岸には行ったことがない。あくまで印象であるが、漁業が盛んで、加工品の製造が優れていると思うが、逆にそれしか思いつかず、業種が限られているように思う。陸前高田市や大船渡市の出身の友達に、どこに就職するのか聞くと、盛岡市に就職すると答えるので、イメージを持つ上で影響していると思う。

〔回答：伊藤さん〕

宮古市に震災学習で出かけたことがある。個人的な話になるが、昨年6月に室蘭市と宮古市を結ぶフェリーが開通した。それまでは、帰省するのに、新幹線で函館北斗までの行程で5～6時間かかっていたのが、フェリーを利用すると、夜に宮古市から乗船すると、寝ている間に朝には室蘭市に着くので非常に便利である。

○軽石義則議員

県外出身の方々は、岩手県の良さや、岩手県の足りなさを実感していると思う。岩手県は宣伝下手で、良いことは当たり前で、他地域への主張の仕方がうまくないのではないかという評価を他地域の方からもらうが、その点についてどのように感じているのか伺いたい。

また、就職について、民間か公務の選択について、大学等で勉強したことを活用して仕事を選ぶ際に、現状では情報量が足りないと感じているのか、民間と公務を比較せずに、民間に行った方がよいと考える時代なのか、どのように感じているのか伺いたい。

また、県内出身の方には、地元で足りないところをどう感じているのか伺いたい。

〔回答：伊藤さん〕

自分は、業種としては公務員一本で、地元の市と隣町での就職を考えている。

出身の室蘭市は人口9万人で、盛岡市といつも比較して考えている。盛岡市は想像していたより寒くなく、暑い時はすごく暑いと感じている。先ほど、玉川さんも発言した通り、盛岡市は、大都会でもなく、生活しやすい。駄目なところは特に感じない。北海道の地元の友達が遊びに来た時に、何をしたいか聞くと、三大麺を食べたいと言われ、それ以外は思いつかないと言われた。岩手県が宣伝下手というのは、そういうところに現れているのかと思う。

〔回答：佐藤さん〕

自分も、盛岡市の宣伝下手を実感している。出身の秋田市より盛岡市は都会だと感じる。まず、驚いたのは、盛岡市のバス停には屋根付きの電光掲示板があることだが、盛岡市出身の学生は当たり前と感じているようだ。新幹線のホームが在来線と分かれていて格好いいと思うのだが、やはり当たり前だと思っているようだ。

就職は、地元の秋田県、秋田市の公務員に絞って就職活動を考えている。

〔回答：玉川さん〕

盛岡市の良いところは、都会過ぎず、田舎過ぎないところだと思う。実際に住んでみればわかる良さがあると実感している。先日、東京の人に、盛岡市は何が有名かと聞かれ、宮沢賢治としか答えられなかった。県外の人に何が有名と聞かれて、はっきり答えて納得してもらうことが、自分の中でイメージできないと感じている。

就職は、青森県の地元で公務員を目指している。

〔回答：上村さん〕

岩手県の人のは、東京に行くと感じる。お店の接客なども岩手県の方が良いと思う。建物もきれいだと思う。生活する上では、盛岡市が生活しやすいと感じている。足りないところは思い浮かばないが、雇用先の少なさかと思う。

〔回答：富澤さん〕

民間への就職を希望している。大学に入る前までは公務員を志望していたが、先輩の話を聞いたり、ガイダンスで公務員に関わる話を聞いた上で、自分は自由な環境で働いてみたいと思った。

岩手県、盛岡市は都会過ぎなくて良いと思っていたが、実際に県外の人から言われると本当なんだと実感した。また、岩手県の人には宣伝が下手ということは分かる気がする。自分はわんこそばの店でアルバイトをしており、最近ではインバウンドで台湾やタイから来てくれたり、若い人がSNSの発信を見てきてくれることが多いが、それはほとんどが県外の人が発信したものである。岩手県の人あまり発信していない。また、SNSを見て来てくれる人の旅行プランを見ると、お寺やスキー、手作り村など決まった所しかなく、地元で感じる良さを外の人に伝えていくことの難しさも感じる。

〔回答：西野さん〕

まだ就職活動をしていないので、民間か公務かは悩んでいる。自分はずっと北上市に住んでいるが、人の良さを感じるし、頑張っている人が多いと思う。また、何かをやってみたいと言うと協力してくれる人が多い。自分が携わっているコミュニティFMにいらっしゃる、北上市で活躍しているゲストの話を聞くと、北上市でいろいろ活動しようとしている人が多いという印象があり、地元への気持ちが強いと感じる。

自分の高校は進学校であったが、進学の際に岩手県に大学が少なく、県外へ出る生徒が多かった。県外に出るとそこで就職する人も多く、高校までの地元で暮らす間に、地元への愛着がどの程度あるかによって、一度県外に出ても帰ってくるかどうかが決まってくるように感じた。岩手県の悪いところというわけではないが、大学が少ないことが県内に残らないことに影響していると思う。

○千葉伝議員

県内出身の方に何うが、就職にあたって、やりたい仕事や給料等、何が決め手となるのか。

県立大学の看護学部は県内に就職する人が40%くらいで、県外に就職する人が半分以上と聞き、そ

の理由を聞いた際、一度岩手を離れてみたい、岩手よりも給料が良いから、ということであった。給料が良くても生活費がかかる場所ではプラスマイナスもあることをぜひ考えてもらいたい。

〔回答：上村さん〕

自分がその仕事をすることに興味や誇りが持てるかが第一である。自分の子供に誇れるような仕事がしたいと考えている。次にワークライフバランスがしっかりとれるか。その後に賃金や福利厚生が続いてくる。

〔回答：富澤さん〕

業種、職種が第一であるが、岩手県内に支社があることも重要である。最初は県外で働くことも考えているが、県内に支社等があるところを重点的に探している。卒業後40年くらいその会社で働くとなると転勤もあり、見知らぬ土地で働くのは抵抗がある。また、自分の大学生活の経験が生かせることや、ワクワクして働けそうなことなど、企業理念等を見て、賛同できるところを探している。一度県外に出ても最終的には地元に戻ってきたい。

〔回答：西野さん〕

まだ就職については迷っているが、暮らしと仕事には密接な関係があるので、「暮らしやすさ」を重視したいと思っている。地元が好きなので、子育ては北上市でやりたいと思っている。最初は違う場所で挑戦して、いつか戻ってくるのも選択肢の一つであると思う。

○ハクセル美穂子議員

公務員、公認会計士志望や、大企業に興味があるとの意見があったが、中小企業についてお聞きしたい。県内の中小企業は、意外とすごいところが多いが知られていない。中小企業の情報をどの程度把握しているのか。知ってはいるが大企業に興味を持ったり、公務員を志望しているのか。地元に戻って仮に公務員になれなかった場合、地元の中小企業を次の候補とするのか。

県外出身の方には、地元に戻って公務員にならなかった場合、どのような企業を希望するのか、県内出身の方には、地元の中小企業の情報を大学の中でどの程度聞いているのか伺う。

〔回答：伊藤さん〕

公務員に就けなかった場合、例えば小中学校の臨時の事務職等で当面働いて、再挑戦すると思う。

〔回答：佐藤さん〕

公務員以外全く考えていないので、もし一度だめだったら次も挑戦すると思う。それでもだめだったら今のバイト先を候補とするかもしれない。

〔回答：玉川さん〕

公務員以外はあまり考えていない。小学校の時に社会科見学等で地元の企業を知る機会があったが、中学校、高校に上がるにつれて、地元の中小企業にどういふところがあるのか知る機会がなくなった。公務員以外考えてこなかったこともあるが、もともと地元の中小企業を知らない。

〔回答：上村さん〕

地元の中小企業については、サークルの先輩の就職先等で聞くことはあるが、どのような仕事かはイメージがつかない。自分の専攻から、ものづくりよりは、人事管理や経理に興味があり、あまり中小企業への就職は考えてこなかった。

〔回答：冨澤さん〕

大学に中小企業のハンドブックがあり、それを見たり、県内大学専用のインターンシップを申し込めるサイトがあり、そのようなところからある程度の情報は学内で得られる。

大企業でインターンシップしたが、大企業に興味があったというよりは、3週間のプログラムであり、せっかくの機会なので、挑戦してみようという気持ちで行った。

自己PRを書いて、会社の方から連絡をもらい選考会に参加するという逆求人サイトを利用した就職活動もかなり増えてきているが、そのようなことをやっている企業は、岩手にはほとんどない。自分は早めに内定を獲得して卒業研究に打ち込みたいと思っているので、県内の企業は探しづらいが、現在、地元の中小企業にも2、3社興味を持っている。

〔回答：西野さん〕

北上市の中小企業に取材に行って記事を書くという、取材型インターンシップに参加したことがある。また、先日、「ふるさと発見！大交流会」という、県内の中小企業や行政がブース出展し、主に県内の大学1、2年生を対象としてプレゼンをするというイベントが滝沢市であり、その実行委員会に携わっていたので、県内の中小企業を知る機会は結構あった。

中小企業の場合は自分でいろいろと活動できるが、大企業の場合は会社の方針に従わなければならないというイメージで、自分でできる仕事の幅は中小企業の方が広いのかもしれないという印象を持っている。

○佐藤ケイ子議員

県内の中小企業は、求人票を出すのが遅いと指摘されており、県内企業のアプローチはまだ少ないのではないかと思っているが、県内の企業をどう見ているのか。

また、県内ではものづくり産業が盛んであるが、人材不足である。岩手県の企業には何が足りず、どう働きかけていくべきかについて意見を聞きたい。

〔回答：伊藤さん〕

父が室蘭市の製鉄関連の会社で働いているので、ものづくりと言われると父の仕事という印象で、自分のこととしては考えてこなかった。

〔回答：佐藤さん〕

公務員一本で考えてきたので民間企業をあまり見てこなかったが、説明会等が結構あるように聞いている。

〔回答：玉川さん〕

求人票や説明会だけでは分からないことが多いと思うので、中学校、高校の段階から地元の企業と接する機会があればいいと思う。

〔回答：上村さん〕

先輩が県内の中小企業のインターンシップに参加した話を聞くと、1、2日くらいで雑用程度の仕事しかできなかったということだった。

自分は地元の銀行のインターンシップに参加したが、地元の企業が良くなるためにはどうしたらよいかを考えるものであり、非常にためになった。企業によりインターンシップの質に差があると感じている。

〔回答：冨澤さん〕

県内の企業から早めに声をかけてもらえれば、候補として考えると思う。県内の企業は、経団連の就活解禁のタイミングで大学で合同説明会などをやっているが、それでは遅いと思う。中途採用向けのマッチングフェア等は市内でも見かけるので、新卒向けの企業と接することができるイベント等があれば、参加してみたいと思う。

ものづくり産業については、作り手としての職業にはあまり興味がないが、人事管理等の文系の職業であれば興味がある。

〔回答：西野さん〕

就職活動はまだしていないので、就職や仕事に敷居の高さを感じる。周囲の友達とも就職活動はいつから、どうしたらいいのだろうという話をしている。就職すること自体のハードルの高さを感じており、早い段階からもう少し仕事や県内の企業に気軽に触れる機会があれば、就職の選択肢の幅も広がる気がする。

ものづくり産業も、文系だと縁がないと感じるので、文系でもできる仕事に触れる機会が中学校、高校からあれば、就職活動の幅が広がると思う。

○千葉秀幸議員

県議会や議員がどのような活動をしているのか、知ってもらいたいと思っている。今はインターネットの影響が大きい社会だが、ホームページ、Facebook、Instagram、Twitter等のSNSについて、何をどれくらいの頻度で利用しているのか。

また、玉川さんにお聞きしたいが、なぜ、人口減少問題に興味を持ったのか。

〔回答：玉川さん〕

人口減少に興味を持ったのは、大学で勉強する中でどの分野でもキーワードとなっており、いろいろ考える中で興味を持った。今後就職しても何か解決に役に立てる仕事ができたらと思っている。

〔回答：伊藤さん〕

選挙期間中にゼミでホームページを見た。議員関係のSNSをフォローなどしている人は周りにはいないが、話題になるような面白いネタがあれば見る。よく利用するSNSは、LINE、Twitter、Instagramである。

〔回答：佐藤さん〕

ゼミの資料づくりなどで政党等のホームページを見るくらいである。よく利用するSNSは、LINE、Twitter、Instagramである。政治のことを知るためではなく、全くのプライベートで用いている。SNSで政治を知るのは炎上した話題が拡散されて回ってきた時である。

〔回答：玉川さん〕

SNSを利用しておらず、政治的なニュースは新聞やテレビから知る。

〔回答：上村さん〕

よく利用するSNSは、LINE、Twitter、Instagramである。政治関係は、炎上したものや、上原議員のTwitterが拡散されてくることがある。SNSで県議会の広報をしても、あまり見られないように思う。

〔回答：富澤さん〕

よく利用するSNSは、LINE、Twitter、Facebookである。Twitterは友人や趣味のやり取りで使っている。Facebookは学業や大人とつながるために使っている。どちらも頻度は高い。政治関係は大学の課題に関係した時や、選挙の前にまとめサイトのホームページを見ることがある。いち早く情報を得るためにはSNSは効果的だが、情報に巡り合えるかどうかの不確実性がある。

〔回答：西野さん〕

よく利用するSNSは、LINE、Twitter、Instagram、Facebookである。LINE、Twitter、Instagramはプライベートで利用するが、Facebookは大人と交流するために利用している。

人口減少についてだが、北上市の若い人が減ってきている印象があり寂しく感じ、大学2年生の時に北上市の小学生に北上市の良さを知ってもらおうイベントを企画した。地元への愛着が子供の頃からあると、大人になってから戻ってくるきっかけになると思う。地元が好きだと思えるきっかけがたくさんあると、地元に戻ってくる、残るという選択肢が増えると思う。

◆ 感想など

○川村伸浩座長

最後に、本日の意見交換会の感想を、一言ずついただきたいと思う。

〔回答：伊藤さん〕

国会中継を見ることがたまにあり、県議会ももっとぶつかり合っているのかと思っていたが、議員が和気あいあいと話しており、議論も相乗効果で活発になっているような感じがした。

意見交換会では、インターンシップの話など自分が経験していない話を聞くことができて良かった。

〔回答：佐藤さん〕

意見交換会の前印象とは違い、明るい感じで楽しかった。

周囲は公務員志望が多く、民間希望の方の話を聞く機会がなかったので、非常に良い経験となった。

〔回答：玉川さん〕

傍聴等を通して議会に親近感がわいたので、今後テレビを見たり傍聴に来てみたいと思った。県内外で見えているものやインターンシップの経験等、就職する上で非常に参考になった。

〔回答：上村さん〕

最初は硬い印象だったが、和気あいあいと進めてもらい楽しかった。周囲は民間への就職希望ばかりなので、公務員志望の方の意見や、県外へのUターンを考えている方の話が聞けて良い勉強になった。

〔回答：富澤さん〕

最初は硬いイメージがあり、議会の傍聴も初めてで不安であったが、普段ポスターで見の方々と話をする機会はなかなかないし、岩手大学の方とも話が出来て良い機会だった。自分たちの話も否定せずに受け止めてもらえ、話しやすく、これからの議会の見方が変わってくると思う。

〔回答：西野さん〕

参加者に2年生が自分しかいなく不安だったが、きちんと意見を聞いてもらえ、ありがたかった。傍聴も初めてであったが、いろいろと話ができ、敷居の高さが低くなった感じがしている。今後もいろいろと調べてみたい。今後、県議会の敷居の高さを低くするためにイラスト等を活用してもいいと思う。

◆ 閉会

○川村伸浩座長

あっという間の時間であったが、本日はこれで終了させていただく。学生の皆さんは、お互いに様々な新たな情報を得ることができたようであるし、初めて傍聴して議会のハードルが下がったのではないかと思っている。各議員もSNSを利用しており、議会もホームページで情報発信しているので、ぜひ今後宣伝していただきたい。

今日は貴重なお話を伺った。議会としても皆様の御意見を参考とし、これからの県政や議会運営に生かしていきたい。本日頂戴した御意見、御提言については、県議会の全議員が情報共有し、今後の議会活動に生かしていくので、これからも県議会に対する御意見や御提言を、地元の県議会議員あるいは県議会事務局までお寄せいただきたい。我々としては、本日の議場等の見学や議会の説明、そして議員との意見交換の内容について、今後、皆さんの学業や主権者としての行動に生かしていただければと思っている。

本会議だけでなく、委員会も傍聴できるので、お気軽に県議会の傍聴に是非お越しいただきたい。さらに御家族や友人・知人にも傍聴を是非お勧めいただきたい。

本日は、お忙しいところ、御参加いただき感謝申し上げます。以上をもって、意見交換会を終了させていただきます。